

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

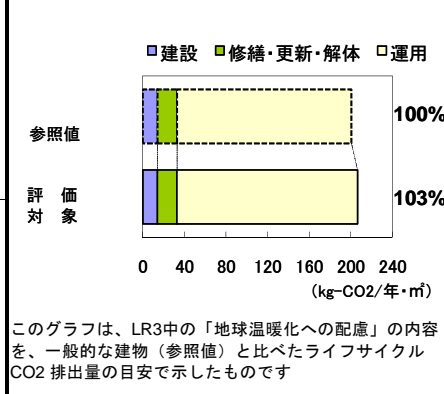
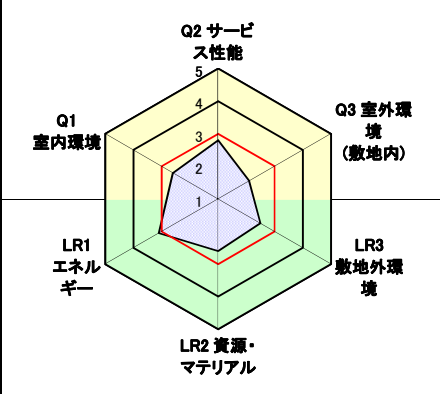
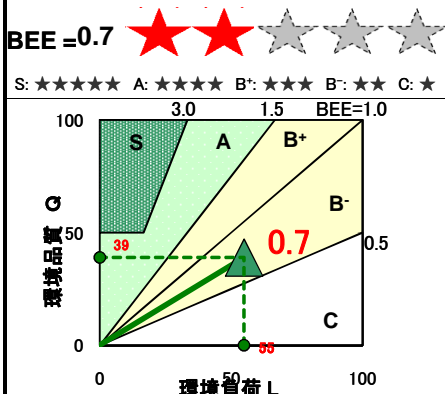
1. 建物概要					
建物名称	新潟刑務所 収容棟A				
建設地	江南区 山二ツ381-4				
用途地域	指定なし				
建物用途	ホテル				
竣工年	2012年3月 予定				
敷地面積	84,076.20 m ²				
建築面積	2,804.88 m ²				
延床面積	9,421.65 m ²				
階数	地上4F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2010年5月25日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B-	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{39}{55} = 0.7$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 2.9		バリアフリー	Q2.1.1.3	3
			維持管理	Q2.1.3	4
			更新性	Q2.3.3	2
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 2.9		耐震・免震	Q2.2.1	3
			信頼性	Q2.2.4	3
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.3		建物の熱負荷抑制	LR1.1	3
			自然エネルギー利用	LR1.2	4
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 2.3		節水	LR2.1.1	3
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	1
			再利用可能性向上	LR2.2.6	3
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.0		生物環境の保全・創出	Q3.1	1
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 2.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	1
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。					
<p>人命の確保とともに、収容施設という役割を果たすために、建築基準法に則ったり、堅実な構造計画をしています。敷地内には、雨水浸透施設を設置し、雨水の敷地外への流出を出来るだけ少量に抑えるよう、計画しています。また、収容施設は迷惑施設ととられがちですが、敷地内を積極的に緑化し、建物高さも既存のものよりも低くして圧迫感を低減するなど、周辺環境に溶け込むような建築計画を行っています</p>					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

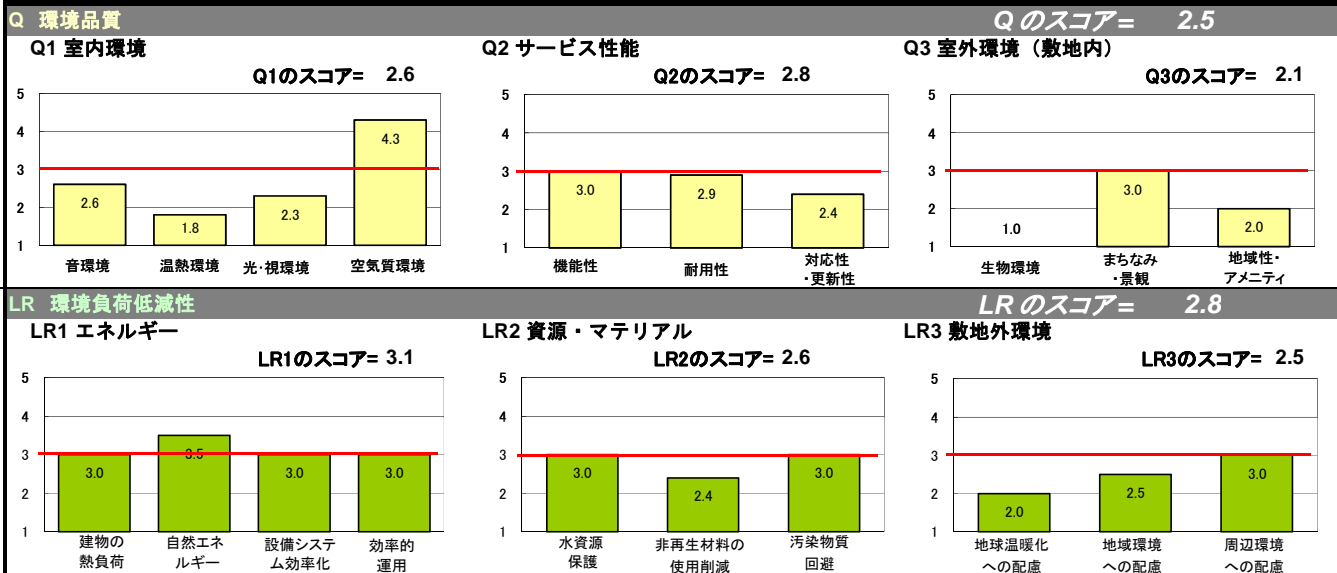
CASBEE[®]新潟 | 評価結果内訳 |

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 大項目の評価(レーダーチャート) 2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 収容施設であるとともに、被収容者に社会復帰教育を授ける場である矯正教育施設であることを目指しました。また、迷惑施設と受け取られることの多い施設ですが、外観はシンプルなデザインとし、敷地内も積極的に緑化するなど、周辺環境に溶け込むような建築計画をしました。		その他
Q1 室内環境 サイン計画に鮮やかな色彩を採用し、明るいイメージのある内部空間としました。排煙窓を設置し、自然排煙としています。	Q2 サービス性能 監視機能を重視するため、中央に管理カウンターを設置して、廊下が見渡しやすいようにしています。中廊下も食食用カートが通行しやすいように幅を広く計画しています。	Q3 室外環境(敷地内) 収容棟Aの周辺には、ホワイトクローバーを敷き詰めます。敷地内には、カツラ・ハナミズキなどを道路沿いに積極的に植樹し、周辺環境に配慮します。
LR1 エネルギー 太陽光パネル(72kW)分を設置。設備容量を必要最低限に抑える。	LR2 資源・マテリアル 主要水洗に節水コマなどを設置し、節水に努めている。	LR3 敷地外環境 既存の収容棟(将来解体予定)よりも高さを抑さえ、近隣への風害・日影の影響をできるだけ少なくするよう考慮しています。また、外塀は敷地境界線からセットバックし、周辺への圧迫感の低減に努めています。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される